

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

<u>添付のCD-ROMについて(82ページ)</u>	Expressワークステーションに添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」に収められているソフト ウェアについて紹介します。
EXPRESSBUILDER( 83ページ)	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」につ いて説明します。
ExpressPicnic( 89ページ)	シームレスセットアップ用パラメータディスク (セットアップパラメータFD )を作成するツール 「ExpresPicnic」について説明します。
<u>Express本体用バンドルソフトウェア( 95ページ</u> )	Expressワークステーションにバンドルされてい るソフトウェアについて説明します。
<u>管理PC用バンドルソフトウェア( 101ページ )</u>	.Expressワークステーションを監視・管理する ネットワーク上の管理PCにインストールして使 用できるソフトウェアについて説明します。

# 添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM<sup>r</sup> EXPRESSBUILDER<sup>™</sup>」には、Expressワークステーションを容易にセットアップするためのユーティリティや各種Express本体用バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressワークステーションの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressワークステーションの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

名称	用途	
セットアップユーティリティ		
EXPRESSBUILDER	Expressワークステーションのセットアップ	
ExpressPicnic	EXPRESSBUILDERシームレスセットアップの情報 を作成	
システム管理ユーティリティ		
オフライン保守ユーティリティ	OSが起動しないような重度の障害のときの保守用 ユーティリティ	
ESMPRO/ServerAgent	OS上からの障害監視	
ESMPRO/ServerManager	管理PCを利用したExpressワークステーションの 管理	
エクスプレス通報サービス	障害発生時の保守センターへの通報サービス	
その他		
オンラインドキュメント	電子マニュアル	

# EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進める セットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェア の構成を運用時と同じ状態にしてください。

## 起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニュー や項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERを本装置のCD-ROMド ライブにセットして起動し、 EXPRESSBUILDER内のシステムから起動す る方法です。この方法でExpressワークス テーションを起動すると右に示す 「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示 されます。

このメニューにある項目から本装置をセット アップします。



- 本装置以外のコンピュータおよび、EXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外
  のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
  - メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされている OS(Windows NT)を消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメ ニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98またはWindows NT 4.0が 起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライプにセットするとメニューが表 示されます(右図参照)。表示されたメニュー ダイアログボックスは「マスターコントロー ルメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこ の後の「マスターコントロールメニュー」を参 照してください。



## EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップ、およびOS(オペレー ティングシステム)のセットアップ・インストールをするときに使用します。

#### 起 動

ヒント

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- ExpressワークステーションのCD-ROMドライブへEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMを セットする。
- 3. CD-ROMをセットしたら、リセット( <Ctrl> + <Alt> + <Del>キーを押す)するか、電源をOFF/ ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

### キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動する と、キーボードの選択メニューが現れま す。ご購入されたシステムで使用するキー ボードを選択してください。なお、このメ ニューは、1度設定を行うと以降は表示さ れません。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver2.xxx-x Copyright(C	) NEC Corporation 1999
[キーボード選択]	ディスクアレイボード:なし
日本語版キーボード(標準)	サーバマネージ メントボード :なし 保守用パーティション :あり
央話キー小ート	システムコンフィグレーション:なし

1度設定を行った後、キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中 (画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき)に<K>キーを数秒間押してく ださい。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。



### シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows NT 4.0)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく( シームレスで )セットアップできる Express5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再イン ストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能 が代わって行います。

「シームレスセットアップ」を選択すると、Windows NTのインストールが開始されます。

「シームレスセットアップ」は最初のセットアップであることを前提としているため、実行 гО するとハードディスクの内容が失われることがあります。ハードディスク内に保持したい 重要 データがある場合は、「ツール」をご利用ください。

#### ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDER に収められている各種ユーティリティを 個別で起動し、オペレータが手動でセッ トアップを行います。「シームレスセット アップ」では自動設定できない設定や、よ り詳細に設定したい場合などに使用して ください。また、システム診断やサポー トディスクの作成、保守用パーティショ ンの設定を行う場合も、ツールメニュー を使用します。次にツールメニューにあ る項目について説明します。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユー ティリティです。 詳細は126ページ、またはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を 検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログ ラムが起動されます。108ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作して ください。

● サポートディスクの作成

ここでは、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピィディスクから起動する ための起動用サポートディスクを作成します(空きフロッピィディスクはお客様でご用意 ください)。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピィディスクのラベルへ書き込 んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピィディスクはお客様でご用意ください。



- MS-DOS起動ディスク MS-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。
- オフライン保守ユーティリティ
  オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。
- システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用 パーティションが作成されていないときば、保守用パーティションの作成」と「オフライン 保守ユーティリティのアンインストール」以外の項目は表示されません。保守用パーティ ションの詳細については、6ページを参照してください

保守用パーティションの設定の各項目を実行中はExpressワークステーションをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。終了するときは、トップメニューに 戻り、「終了」を選択してください。

- 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します。保守用パーティションの確保ができた場合、または、既に保守用パーティションが確保されている場合は、続けて各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

- 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ(システム診断 / オフライン保守ユーティリティ)を、CD-ROM から保守用パーティションヘインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に、使用 することができます。

- 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ(システム診断 / オフライン保守ユーティリティ)を、フロッピィ ディスクから保守用パーティションヘコピーします。各種ユーティリティがフロッ ピィディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使 用しないでください。

- オフライン保守ユーティリティのアンインストール

システムに登録されているオフライン保守ユーティリティインストール情報を削除し ます。ユーティリティのファイルそのものは削除されません。この機能を実行する と、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動することができなくな ります。オフライン保守ユーティリティのアンインストール後、オフライン保守ユー ティリティをハードディスクから起動するためには、再度、各種ユーティリティのイ ンストールを行う必要があります。

- FDISKの起動

MS-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションを作成/削除など を行うことができます。

ソフトウェ ア編

● システムBIOSの更新

インターネットで配布される「BIOS updateデータ」を使用して、本体装置のシステム BIOSを更新することができます。「BIOS updateデータ」については、次のホームページ に詳しい説明があります。

Express5800 仮想店舗 『夜の58番街』:http://www.express.nec.co.jp

システムのBIOSを更新する手順は次のとおりです。

 システムBIOS更新プログラムが更新作業をしている間は本体装置の電源をOFFにしな 重要
 いでください。更新作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。 「BIOS updateデータ」に含まれる「README.TXT」にはシステムBIOS更新の手順や 注意事項が記載されています。記載内容を確認した上でシステムBIOSを更新してくだ さい。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。

1. 「BIOS updateデータ」フロッピィディスクを作成する。

インターネットで配付される「BIOS updateデータ」を使用してフロッピィディスクを作成します。

フロッピィディスクへの格納方法は、同時に配付される「README.TXT」を参照してください。

2. 「BIOS updateデータ」フロッピィディスクへ更新作業に必要なプログラムを転送する。

EXPRESSBUILDERが自動的にCD-ROMからフロッピィディスクにファイルを転送します。

3. BIOS更新プログラムを起動する。

ファイル転送が終了すると、自動的にExpressワークステーションは再起動して「BIOS update データ」フロッピィディスク内のBIOS更新プログラムが起動します。

更新作業を終了すると、次のメッセージが表示されます。

Flash memory has been successfully programmed PRESS ANY KEY TO RESTART THE SYSTEM If the system does not restart, TURN THE POWER OFF, THEN ON

4. フロッピィディスクを取り出し、任意のキーを押す。

Expressワークステーションが更新されたBIOSで再起動します。

● ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

### マスターコントロールメニュー

Windows 95/98またはWindows NT 4.0が動作 しているコンピュータ上で、添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をセットしますと、「マス ターコントロールメニュー」が自動的に起動しま す。

システムの状態によっては自動的に起動し

ない場合があります。そのような場合は、

ローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

CD-ROM上の次のファイルをエクスプ



マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98、Windows NTで動作する各種 Express本体用バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントの参照を行 うことができます。

★・○ オンラインドキュメントは、HTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを 意要 参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLプラウザをインス トールしておいてください。



トント

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。こ のファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインス トールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、 はじめに「Bundle Software」の「Acrobat Reader」を選択して、Acrobat Readerをインストー ルしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれのカテゴリ 名をクリックするか、右クリックしてポップアップメニューを呼び出します。メニューのそ れぞれの項目を選択しますと、各ユーティリティの実行またはインストールが開始されま す。



終了する場合は、ポップアップメニューの終了を選択するか、ウインドウ右上の[X]ボタン を押してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

# ExpressPicnic

「ExpressPicnic<sup>®</sup>」は、Expressワークステーションのセットアップで使用する「セットアップパラメータ FD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをする と、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールま でのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールする ことができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressワークス テーションをセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows NT 4.0をインストールすることはでき ます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップ の途中で修正・作成することもできます。

### ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 95/98、またはWindows NT 3.51 以降で動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストールします。



ExpressPicnicは PC-AT互換機・PC-98シリーズで動作します。

### Windows NT 4.0またはWindows 95/98

Windows NT 4.0またはWindows 95/98で動作しているコンピュータの場合は次の手順で インストールします。



お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、 同じ手順でセットアップすることができます。

- 1. Windows 95/98またはWindows NT 4.0を起動する。
- CD-ROMドライブに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
  マスターコントロールメニューが表示されます。

- 3. [2nd ] Setup Tool )をクリックする。
  メニューが表示されます。
- ExpressPicnic をクリックする。
  セットアップウィザードが起動します。



メッセージに従ってインストールを続け てください。 インストールを完了したら[終了]ボタン をクリックし、「セットアップパラメータ FDの作成」に進んでください。



### Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

- 1. Windows NT 3.51を起動する。
- 2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
- 3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の 「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

# セットアップパラメータFDの作成

Windows NT 4.0をインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows 95/98またはWindows NT 4.0の場合>

スタートメニューから[プログラム]、 [ExpressPicnic]の順にポイントし、 [Trekking]をクリックする。



<Windows NT 3.51場合>

プログラムマネージャの [ExpressPicnic]グループから [Trekking]アイコンをダブルクリックする。



2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[NEC基本情報]ダイアログボックスな ど、セットアップ情報を設定するダイア ログボックスが順に表示されます。



メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。



[ キャンセル 」ボタンをクリックすると 入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、 [ファイルの保存 パイアログボックスが 表示されます。



- 4. [セットアップパラメータFDの作成] チェックボックスをオンにする。
- 5. [ファイル名 ボックスにセットアップ情 報のファイル名を入力し、[OK ボタンを クリックする。

「フロッピィディスクを挿入してくださ い。」というメッセージが表示されます。

 1.44MBでフォーマット済のフロッピィ ディスクをフロッピィディスクドライブ にセットし、[OK]ボタンをクリックす る。

セイアップパラン	(-9FD	OK.
-01/8		4+2128
		467*

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows NT 4.0をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



重要

● 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。

 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnic ウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報 ファイルを修正してください。

# コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ 情報ファイルを作成します。

- ┏━〇 ユーザ / グループ情報は採取できません。
  - リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
  - アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(91ページ参照)。
- 2. [オプション]メニューの[現マシンからの 情報採取]をクリックする。

採取後は、確認 / 修正画面に移ります。 初期値が、採取したデータになっている ことを除けば「情報ファイルの新規作 成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じ です。

THUR	
ExpressPicnic®	
Rephan. Contract-Service Ballion Rep	MUN

## 大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラ メータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(91ページ参照)。
- [オプション]メニューの[大量インストール をクリックする。



- 3. ベースとなるセットアップ情報ファイル を指定する。
- [セットアップパラメータFD作成時の設定]からどちらかのオプションを選択する。

[マシン毎にFDを作成]

1枚のセットアップパラメータFDにセッ トアップ情報ファイルを1つセーブしま す。

[一枚のFDに複数マシン分を保存]

1枚のセットアップパラメータFDに複数 のセットアップ情報ファイルをおさめま す。

- 5. [OK ボタンをクリックする。
- マシンごとに変更する必要のあるパラ メータのみ修正して、セットアップ情報 を作成する。

ダイアログボックスが表示されます。

 7. 必要な設定を終えたら、[OK 」ボタンをク リックする。





 フロッピィディスクをフロッピィディス クドライブにセットし、[OK]ボタンをク リックする。

しばらくすると、さらに情報ファイルを 作成するかどうかの確認があります。



9. セットアップ情報を作成するときは、[はい」ボタンをクリックする。

セットアップ情報を作成するダイアログ ボックスが表示されます。

[いいえ]ボタンをクリックすると、 ExpressPicnicウィンドウに戻ります。



#### 

[マシン毎にFDを作成 を選択した場合は、セットアップ情報ファイルを作成するたびにフロッ ビィディスクのセットを要求されます。[一枚のFDに複数マシン分を保存 を選択した場合は、 同じフロッピィディスク上に作成したファイルをおさめるため、フロッピィディスクをセット する要求は1度しかありません。

# Express本体用バンドルソフトウェア

Expressワークステーションにバンドルされているソフトウェアの紹介、およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

### ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentはExpressワークステーションにインストールするサーバ/ワーク ステーション監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができますが、ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

### インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)を動作させるためにはWindows NTのTCP/IPと TCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはWindows NTの「シス テムガイド」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使いします。ESMPRO/ ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変 更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を 入力します。

### インストール

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)のイン ストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」 を使用します。

Windows NT 4.0が起動した後、Autorunで表示さ れるメニューから[ESMPRO]-[ESMPRO/ ServerAgent ]の順にクリックしてください。以降 はダイアログボックス中のメッセージに従ってイン ストールしてください。



- アドミニストレータの権限を持ったアカ ウントでWindows NTにログインしてく ださい。
- Windows NT 3.51をお使いの場合は、 オンラインドキュメントを参照してくだ さい。



ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当て を行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコン ピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示さ れます。

ESMPRO/ServerAgentまたはESMAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

### インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

- 1. Expressワークステーションを再起動する。
- 2. イベントログを開く。
- 3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないこと を確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからイン ストールし直してください。

# エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報 予防保守 情報含む )を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。 本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速 に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作す るシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させること ができる、クライアント / サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

### エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。 ハードウェア

- メモリ 6.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 2.0MB以上
- モデム

ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由エ クスプレス通報用指定モデム(COMSTARZ MULTI 144II、288、336、560、560IIの いずれか)

● メールサーバ 電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要 です。

ソフトウェア

- Microsoft<sub>®</sub> Windows NT<sub>®</sub> operating system Version 3.51/4.0日本語版(Server/ Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1/3.2/3.3/3.4

### セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してくださ い。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

#### PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守 センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアント の障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守 サービス会社にお問い合わせください。

### PowerChuteplus Ver.5.11J

PowerChuteplus Ver.5.11Jについて説明します。

### PowerChuteplusのセットアップ

Expressワークステーションのモデルの中には出荷時に「PowerChuteplus」がインストール 済みの場合があります。ただし、PowerChuteplusはデフォルト値の状態でインストールさ れています。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

#### PowerChuteplusサービス(UPS-APC PowerChuteplus Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service を開始 してください。

すでに、[UPS-APC PowerChuteplus Service が開始されている場合はそのままでかまい ません。[コントロールパネル ]を閉じてください。

#### 動作確認

UPS-APC PowerChuteplus Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を 確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

確認1 イベントビューアによる確認

Windows NTの「イベントビューア」でPowerChuteplusが正常に起動していることを確認してください。

- 1. [スタート]メニューの[プログラム]-[管理ツール]-[イベントビューア]を起動する。
- 2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
- 3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース 洛が UPS」のものを選ぶ。
- 4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。
  - [正常] UPSとの通信が確立しました。
  - [異常] UPSとの通信が確立できません。
    - このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChuteplusの設定 を変更してください。

#### 確認2 PowerChuteplusのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChutePLUS]-[PowerChutePLUS]を起動する。
  起動方法の詳細はPowerChuteplusの「インストールガイド」を参照してください。
- 2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
  - [正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力 周波数」などが表示される。
  - [異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが グレーアウトで表示されている。 この後の「設定変更」を参照してPowerChuteplusの設定を変更してください。

#### 設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定 を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChuteplus]-[PowerChuteplus]を起動する。

起動方法の詳細は、PowerChuteplusの「オンラインヘルプ」、またはPowerChuteplusに添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. [PowerChuteplus]のメニューバーより、[構成]-[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面 を表示し、各設定内容を確認する。

	88/5/-3		
通信シグナルが スマー トシグナリング である ことを確認する。	- UPS パランタ と 30:551 505 2015 タ ススト 55 プリング	ia/8#14 [0041	
	6° 4 л'энэ - ЛЦа - Р-2	通信ポキ [COM3 ] モデム初期化文字列 [ ポーレキ [2400 ]	
	SMIP X-L SMIP X-J1-8 SMIP 77/07-8 SMIP F X12-8		
	OK	Jatc+*	

コンピュータとUPSの通信 を行うCOMポート番号を正 しく設定する。

- 3. 正しく設定した後、[OK]ボタンをクリックし、「PowerChuteplus」のメニューバーより、[シス テム]-[別のサーバを監視 を選択し、再度監視するサーバを選択する。
- 4. 前ページの動作確認をする。

### 新規インストール

PowerChuteplusの再インストールについては、PowerChuteplusに添付の「インストール ガイド」を参照してください。



ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpressワークステーションをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオン ラインヘルプをご覧ください。